

運動会、スギの葉で飾る

垂井・岩手地区のスギの葉で飾る



5年ぶり開催 子の成長願う

役員が地元住民の協力を得て、前日までにスギの葉を約1辺四方の箱三つ分集めた。当日朝はPTAなどと約50人態勢で設営。入場門と退場門に設置する紅白の柱2本の根元部分にスギの葉を巻き付けたほか、トラックの外周に約2辺間隔で10センチほどの穴を掘り、スギの葉を植えた。

地区運動会は新型コロナウイルス禍や悪天候で4年間中止しており、今年は全校児童67人のほか、岩手子ども園の園児や北中学校の生徒らが参加。6年生で児童代表の栗田花瑠さん(12)が「大きな声を出せる久しぶりの地区運動会でうれしい。練習の成果を発揮できるように頑張りますよ」と呼びかけ、富田海璃さん(11)と高木遥斗君(11)が元気よく宣誓した。保護者や地域の高齢者らも参加し、スギの葉が並ぶトラックでリレーや綱引きなどの競技や半兵衛音頭などの演技を楽しんだ。

5年ぶりの杉門の登場に、同校の教員らは「他校では見たことがない」と口をそろえ、今年赴任してきた特別支援教育支援員の女性(66)は「スギの門や飾りは初めて見たが、地域の温かさや伝統が感じられる。子どもたちも、誇らしいのでは」と話していた。(武藤直子)

不破郡垂井町岩手の岩手小学校で27日、岩手地区運動会が5年ぶりに開かれ、スギの葉で会場を彩る同地区の風習の杉門がお目見えした。前日から地元のみちづくり協議会や連合自治会の役員らがスギの葉を集め、当日朝に入退場門やトラックの外周をスギの葉で飾り付けた。みちづくり協議会の高木茂彦会長(70)は「50年以上は続いている。県内でも残っているのは珍しいのではないかと誇らしげに話した。」

同地区では、入退場門とトラックの外周をスギの葉で飾る習わし。発祥の経緯は不明だが、高木会長は「スギは成長が早く長寿の大木であることから、子どもの成長を願い、厄払いとして安全に運動会ができるよう先人が思いを込めたのでは」と推察する。

今回は、みちづくり協議会や自治



スギの葉が植えられたトラックで徒競走を楽しむ児童ら＝不破郡垂井町岩手、岩手小学校



退場門にスギの葉を飾り付けるなどして準備を進める住民たち＝同